

甲 第 号

木納 潤一 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	城戸 順
論文審査担当者	委員	教授	杉江 和馬
	委員(指導教員)	教授	岡田 俊

主論文

Evaluation of the Effectiveness of Multi-Task Cognitive Activation Therapy Combining Motor and Cognitive Tasks in Patients with Schizophrenia

統合失調症患者に対する運動課題と認知課題の多重課題プログラム(Multi-Task Cognitive Activation Therapy)の効果検証

Junichi Kino, Tsubasa Morimoto, Yasuhiro Matsuda, Masato Honda, Toshifumi Kishimoto, Takashi Okada

Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports 2025 Jun 10;4(2):e70137.

論文審査の要旨

本研究は精神科デイケアを利用している統合失調症患者 44 名を対象とし、独自に開発した運動課題と認知課題の多重課題プログラム(MCAT: Multi-Task Cognitive Activation Therapy)を用いた介入前期間 3 ヶ月と介入期間 3 ヶ月を設定したミラーイメージ試験の解析である。主要アウトカムを BACS-J(Brief Assessment of Cognition in Schizophrenia Japanese version) と FEIT(Facial Emotional identified Test)、副次アウトカムを PANSS (Positive and Negative Syndrome Scale)、LASMI(Life Assessment Scale for the Mentally Ill)、RAS(Recovery Assessment Scale)、BPNSFS (Basic Psychological Need Satisfaction and Frustration Scale)、WCST(Wisconsin Card Sorting Test)として介入 3 ヶ月前、介入直前、介入直後の 3 時点で測定した。MCAT は介入期間前後における BACS-J の言語性記憶、運動機能、Composite Score、PANSS の総合精神病理尺度、LASMI の対人関係において統計学的に有意な改善を認めた。これらにより MCAT は、認知機能障害が重度もしくは中等度の統合失調症患者に対して認知機能及び対人関係を改善する可能性があると結論づけられた。質疑応答では、MCAT の適応に関する患者背景、質均一化と普及のための方策、長期効果に必要な治療期間、統合失調症状に対する効果、他の精神疾患への応用可能性、脱落例の特徴、日常生活機能の改善が認められなかった理由、計測可能なエビデンス蓄積の可能性について問われ、近赤外線スペクトロスコピーやの応用可能性など、今回の研究経験に基づき的確に回答された。本研究は、精神医学行動神経科学の治療戦略選択の一助になり、その発展につながる有意義な臨床研究であると評価され、博士(医学)の学位に値すると考える。

参 考 論 文

1. 統合失調症患者に対する運動課題と認知課題の多重課題プログラム

Cognitive Activation Therapy (CAT) 開発に向けた予備的研究

木納潤一、坂井一也、渡邊和子 精神障害とリハビリテーション 27(1);73-
80, 2023

2. スポーツを用いた認知機能活性化プログラム (Cognitive Activation

Therapy ; CAT) 開発に向けた予備的研究

高野 隼、坂井一也、木納潤一 デイケア実践研究 26(1):3- 12,2022

以上、主論文に報告された研究成果は、参考論文とともに精神医学行動神経科学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和7年9月9日

学位審査委員長

リハビリテーション医学

教授 城戸 順

学位審査委員

臨床神経筋病態学

教授 杉江 和馬

学位審査委員(指導教員)

精神医学行動神経科学

教授 岡田 俊